

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東北財務局長
【提出日】	2022年8月12日
【四半期会計期間】	第65期第1四半期（自 2022年4月1日 至 2022年6月30日）
【会社名】	株式会社山大
【英訳名】	Yamadai Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高橋 暢介
【本店の所在の場所】	宮城県石巻市潮見町2番地の3
【電話番号】	（0225）93-1111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部部長 高橋 茂之
【最寄りの連絡場所】	宮城県石巻市潮見町2番地の3
【電話番号】	（0225）93-1111（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役管理部部長 高橋 茂之
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第64期 第1四半期 累計期間	第65期 第1四半期 累計期間	第64期
会計期間	自2021年 4月1日 至2021年 6月30日	自2022年 4月1日 至2022年 6月30日	自2021年 4月1日 至2022年 3月31日
売上高 (千円)	917,123	1,047,928	4,794,514
経常利益 (千円)	65	30,943	305,223
四半期(当期)純利益又は四半期純損失( ) (千円)	18,502	20,995	296,344
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	1,103,184	1,103,184	1,103,184
発行済株式総数 (千株)	1,187	1,187	1,187
純資産額 (千円)	3,413,654	3,717,749	3,729,772
総資産額 (千円)	5,882,155	6,070,743	6,244,293
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失( ) (円)	16.66	18.90	266.76
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	30.00
自己資本比率 (%)	58.0	61.2	59.7

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度にかかる主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。

3. 第64期第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第64期及び第65期第1四半期累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第1四半期累計期間において、当社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第1四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期累計期間における我が国経済は、新型コロナウイルス感染症の拡大が抑制される中、急激な円安による為替相場の変動、ウクライナ情勢による資源価格の高騰などにより、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

住宅建築業界におきましては、新設住宅着工戸数も弱いながら堅調に推移しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響、ウッドショック、原油等の資源価格の高騰等により、先行きに懸念が広がる状況で推移いたしました。

このような状況のもとで、改正木材利用促進法（脱炭素社会の実現に資する等のための建築物等における木材の利用の促進に関する法律）が2021年10月1日に施行され、対象が民間建築物や中高層建築物を含む「建築物一般」に拡大されたこと、更に地球上で唯一の循環資源である木材を生かして「持続可能な開発目標 SDGs」の実現に貢献していくことを宣言いたしました。私たちは、Community with wood～200年先の笑顔のために～、非住宅建築の木造化を推進し、地産地消の認証木材使用による森林保護や高性能住宅により二酸化炭素の排出量を抑制し、地球温暖化防止へ貢献してまいります。

住宅資材事業では、プレカット受注を営業戦略の柱として、建材・住設・エクステリア等のトータル受注を目指してまいりました。また、製材工場ウッド・ミルのブランドであります国産人工乾燥杉製材品「宮城の伊達な杉」の更なる普及や、2019年1月に選出された「第7回富県宮城グランプリ」を糧に宮城県内産業の発展や地域経済の活性化に努力してまいりました。

建設事業では、宮城の伊達な杉を使用することで木の本来の性質であります優しい質感と香り、調湿効果に優れ、ある程度の太さがあれば火にも強く耐久性があり、「優しさ」と「強さ」を兼ね備えた「宮城の伊達な杉の家」CORE（コア）等と、選ばれた自然素材を採用し心身の健康を配慮した設計ノウハウと健康素材で、構成される住まいの提案と住宅の高断熱化と高効率設備により、快適な室内環境と大幅な省エネルギーを同時に実現した上で、太陽光発電等によってエネルギーを創り年間に消費するエネルギー量が概ねゼロとなる、ZEH住宅等を拡販してまいりました。

この結果、当第1四半期累計期間の売上高は、1,047百万円（前年同期比14.3%増）となりました。営業利益は26百万円（前年同期営業損失4百万円）、経常利益は30百万円（前年同期経常利益0百万円）、四半期純利益は20百万円（前年同期四半期純損失18百万円）となりました。

なお、セグメントの業績は、次のとおりであります。（各セグメントの売上高は、外部顧客に対するものであります。）

#### ア．住宅資材事業

大型木造物件と地域に根ざした営業展開を図るため、地場工務店等を中心とした営業活動に注力しました。ウッドショックの中、プレカット、宮城の伊達な杉の出荷が好調であったことにより、売上高889百万円（前年同期比18.7%増）、営業利益85百万円（前年同期比63.3%増）となりました。

#### イ．建設事業

注文住宅等の競争が厳しく、売上高147百万円（前年同期比5.4%減）、営業損失15百万円（前年同期営業損失19百万円）となりました。

#### ウ．賃貸事業

賃貸収入は、売上高10百万円（前年同期比7.5%減）、営業利益8百万円（前年同期比11.3%減）となりました。

また、当第1四半期末における総資産は、流動資産の減少などにより6,070百万円と前事業年度末に比べ173百万円の減となりました。

負債につきましては、流動負債の減少などにより2,352百万円と前事業年度に比べ161百万円の減となりました。

純資産は、利益剰余金の減少などにより3,717百万円と前事業年度に比べ12百万円の減となりました。

(2) 経営方針・経営戦略等

当第1四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(3) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第1四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

(5) 主要な設備

当第1四半期累計期間において、主要な設備及び主要な設備計画等の著しい変動はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第1四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,200,000
計	4,200,000

###### 【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (2022年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2022年8月12日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	1,187,368	1,187,368	東京証券取引所 スタンダード市場	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であり、単元株式数は100株であります。
計	1,187,368	1,187,368	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数 (株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
2022年4月1日～ 2022年6月30日	-	1,187,368	-	1,103,184	-	97,927

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

( 6 ) 【議決権の状況】

当第 1 四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため記載することができないことから、直前の基準日（2022年 3 月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年 6 月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式（自己株式等）	-	-	-
議決権制限株式（その他）	-	-	-
完全議決権株式（自己株式等）	普通株式 76,400	-	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 1,109,600	11,096	同上
単元未満株式	普通株式 1,368	-	同上
発行済株式総数	1,187,368	-	-
総株主の議決権	-	11,096	-

【自己株式等】

2022年 6 月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（％）
株式会社山大	宮城県石巻市潮見町2番地の3	76,400	-	76,400	6.43
計	-	76,400	-	76,400	6.43

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間までにおいて、役員の異動はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

### 3．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

## 1 【四半期財務諸表】

## ( 1 ) 【四半期貸借対照表】

( 単位：千円 )

	前事業年度 (2022年 3 月31日)	当第 1 四半期会計期間 (2022年 6 月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,382,022	1,428,332
受取手形及び売掛金	860,435	701,008
完成工事未収入金等	98,107	21,636
商品及び製品	312,078	380,841
仕掛品	178,592	208,991
原材料及び貯蔵品	89,106	93,604
販売用土地建物	252,767	244,373
未成工事支出金	35,132	34,159
その他の流動資産	18,898	14,011
貸倒引当金	3,956	3,538
流動資産合計	3,223,184	3,123,420
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	754,247	733,121
機械装置及び運搬具（純額）	134,305	122,543
土地	1,715,294	1,715,294
その他の有形固定資産（純額）	269,759	265,729
有形固定資産合計	2,873,606	2,836,689
無形固定資産	17,864	15,697
投資その他の資産	2 129,638	2 94,936
固定資産合計	3,021,108	2,947,323
資産合計	6,244,293	6,070,743



(単位：千円)

	前事業年度 (2022年 3 月31日)	当第 1 四半期会計期間 (2022年 6 月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	815,213	736,843
工事未払金	33,281	35,812
短期借入金	195,000	195,000
1 年内返済予定の長期借入金	149,596	149,596
未払法人税等	54,617	7,322
賞与引当金	10,300	19,400
完成工事補償引当金	6,790	5,770
その他の流動負債	176,747	168,299
流動負債合計	1,441,546	1,318,044
固定負債		
長期借入金	809,366	771,967
退職給付引当金	120,712	123,168
その他の固定負債	142,896	139,815
固定負債合計	1,072,974	1,034,950
負債合計	2,514,520	2,352,994
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,103,184	1,103,184
資本剰余金	97,927	97,927
利益剰余金	2,536,628	2,524,296
自己株式	54,252	54,312
株主資本合計	3,683,486	3,671,095
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	808	260
土地再評価差額金	47,094	46,394
評価・換算差額等合計	46,286	46,654
純資産合計	3,729,772	3,717,749
負債純資産合計	6,244,293	6,070,743

## ( 2 ) 【四半期損益計算書】

## 【第1四半期累計期間】

( 単位：千円 )

	前第1四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
売上高	917,123	1,047,928
売上原価	769,015	858,384
売上総利益	148,108	189,543
販売費及び一般管理費	152,869	163,498
営業利益又は営業損失 ( )	4,760	26,045
営業外収益		
受取利息	76	3
受取配当金	1,327	1,285
受取助成金	1,671	1,428
仕入割引	1,686	1,451
その他	2,145	2,826
営業外収益合計	6,908	6,995
営業外費用		
支払利息	2,060	1,787
その他	21	309
営業外費用合計	2,082	2,096
経常利益	65	30,943
特別損失		
役員退職慰労金	19,500	-
特別損失合計	19,500	-
税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失 ( )	19,434	30,943
法人税、住民税及び事業税	954	4,646
法人税等調整額	1,885	5,301
法人税等合計	931	9,948
四半期純利益又は四半期純損失 ( )	18,502	20,995

【注記事項】

（継続企業の前提に関する事項）

該当事項はありません。

（会計方針の変更）

該当事項はありません。

（四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理）

該当事項はありません。

（追加情報）

前事業年度の有価証券報告書の（重要な会計上の見積り）に記載した新型コロナウイルス感染症及びロシアのウクライナ侵攻による当社事業への影響に関する仮定について重要な変更はありません。

（四半期貸借対照表関係）

1 保証債務

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
住宅建築資金つなぎ融資利用顧客	81,380千円	36,000千円

2 投資その他の資産の金額から直接控除している貸倒引当金の金額

	前事業年度 (2022年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2022年6月30日)
投資その他の資産	4,192千円	4,162千円

（四半期キャッシュ・フロー計算書関係）

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)
減価償却費	42,461千円	39,903千円

(株主資本等関係)

前第1四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	27,773	25.0	2021年3月31日	2021年6月30日

当第1四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	33,326	30.0	2022年3月31日	2022年6月29日

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額
	住宅資材事業	建設事業	賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	749,531	156,098	11,493	917,123	-	917,123
セグメント間の内部売上高 又は振替高	9,702	-	-	9,702	9,702	-
計	759,234	156,098	11,493	926,826	9,702	917,123
セグメント利益又は損失 ( )	52,491	19,107	9,321	42,705	47,466	4,760

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 47,466千円は、全社費用(主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等)であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

当第1四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額
	住宅資材事業	建設事業	賃貸事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	889,632	147,665	10,629	1,047,928	-	1,047,928
セグメント間の内部売上高 又は振替高	38,118	-	-	38,118	38,118	-
計	927,751	147,665	10,629	1,086,046	38,118	1,047,928
セグメント利益又は損失 ( )	85,740	15,574	8,266	78,431	52,386	26,045

(注)1. セグメント利益又は損失( )の調整額 52,386千円は、全社費用(主に報告セグメントに帰属しない一般管理費等)であります。

2. セグメント利益又は損失( )は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

(単位: 千円)

	報告セグメント				その他	合計
	住宅資材事業	建設事業	賃貸事業	計		
素材	3,458	-	-	3,458	-	3,458
製材品	50,047	-	-	50,047	-	50,047
建材	171,548	-	-	171,548	-	171,548
住設機器	83,300	-	-	83,300	-	83,300
合板	49,340	-	-	49,340	-	49,340
加工品	391,836	-	-	391,836	-	391,836
完成工事高	-	90,381	-	90,381	-	90,381
土地販売収入	-	48,500	-	48,500	-	48,500
建売販売収入	-	16,636	-	16,636	-	16,636
仲介収入	-	581	-	581	-	581
顧客との契約から生じる収益	749,531	156,098	-	905,630	-	905,630
その他の収益	-	-	11,493	11,493	-	11,493
外部顧客への売上高	749,531	156,098	11,493	917,123	-	917,123

当第1四半期累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位: 千円)

	報告セグメント				その他	合計
	住宅資材事業	建設事業	賃貸事業	計		
素材	4,277	-	-	4,277	-	4,277
製材品	60,873	-	-	60,873	-	60,873
建材	172,391	-	-	172,391	-	172,391
住設機器	60,456	-	-	60,456	-	60,456
合板	61,025	-	-	61,025	-	61,025
加工品	530,608	-	-	530,608	-	530,608
完成工事高	-	131,241	-	131,241	-	131,241
土地販売収入	-	15,560	-	15,560	-	15,560
建売販売収入	-	-	-	-	-	-
仲介収入	-	864	-	864	-	864
顧客との契約から生じる収益	889,632	147,665	-	1,037,298	-	1,037,298
その他の収益	-	-	10,629	10,629	-	10,629
外部顧客への売上高	889,632	147,665	10,629	1,047,928	-	1,047,928

( 1 株当たり情報 )

1 株当たり四半期純利益又は 1 株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第 1 四半期累計期間 ( 自 2021 年 4 月 1 日 至 2021 年 6 月 30 日 )	当第 1 四半期累計期間 ( 自 2022 年 4 月 1 日 至 2022 年 6 月 30 日 )
1 株当たり四半期純利益又は 1 株当たり四半期純損失 ( )	16 円 66 銭	18 円 90 銭
( 算定上の基礎 )		
四半期純利益又は四半期純損失 ( ) ( 千円 )	18,502	20,995
普通株主に帰属しない金額 ( 千円 )	-	-
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失 ( ) ( 千円 )	18,502	20,995
普通株式の期中平均株式数 ( 千株 )	1,110	1,110

( 注 ) 前第 1 四半期累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、1 株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。当第 1 四半期累計期間の潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。



## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2022年 8 月 8 日

株式会社 山 大  
取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ  
仙 台 事 務 所

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	陸田 雅彦
--------------------	-------	-------

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	澤田 修一
--------------------	-------	-------

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社山大的2022年4月1日から2023年3月31日までの第65期事業年度の第1四半期会計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）及び第1四半期累計期間（2022年4月1日から2022年6月30日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社山大的の2022年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。